

わがはい ねこ
吾輩は猫である

なつめそうせき
夏目漱石

わがはい ねこ
吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたか うま とうと見当がつかぬ。何でも薄暗い

じめじめした所でニャーニャー泣いていた事 ところ だけは

記憶している。吾輩は わがはい ここで始めて人間 にんげん というものを

見た。しかもあとで聞くとそれは書生 しよせい という人間中 にんげんちゆう

で一番獰悪な種族 いちばんどうあく しゆぞく であつたそう しよせい だ。この書生 しよせい というの

は時々我々 ときどきわれわれ を捕えて煮て食う つかま に く という話 はなし である。しか

しその当時 とうじ は何 なん という考 かんがえ もなかつたから別段 べつだん 恐 おそ し

いとも思 おも わなかつた。ただ彼の かれ 掌 てのひら に載 の せられてスー

と持ち上 も げられた時 とき 何 なん だかフワフワした感 かん じがあつ

たばかり み である。掌 てのひら の上 うえ で少し落 お ちついて書生 しよせい の顔 かお

を見た み のがいわゆる人間 にんげん というもの みはじめ の見始 みはじめ であるろう。

この時 とき 妙 みやう なもの おも だと思 おも った感 かん じが今 いま でも残 のこ っている。

第一 だいいち 毛 け をもつて装飾 そうしよく されべき かお はずの顔 かお がつるつるし

てまる やかん で薬缶 やかん だ。